

社 会にはいろいろな人が生きていて、誰もが一人一人違っています。性のあり方も人によって異なるといわれています。

性的マイノリティー（少数者）とは、「男性」「女性」といった典型的な性のあり方にとられない人々のことです。

「LGBTQ」とも表すほか、さらに「LGBTQ+」と表現する場合もあります。広がりを出す意味で+を付けた「LGBTQ+」と表現する場合もあります。

日本のLGBTQ+の割合は約3～10%という調査結果（調査団体によって異なる）があり、約10%といわれている左利きの人の割合に近く、身近な存在に感じられないでしょうか。そうはいっても「都会の話では？」「自分の周りでは聞いたことがない」と思っていますせんか？当事者は、家庭・学校・職場など身近なところで悩み、不安を抱えているかもしれません。

近年では、少数者だけでなく誰もがそれぞれの性のあり方を持っている、という考えに基づく言葉「SOGI」ともあります。LGBTQ+を特別視せず、偏見・差別意識を持たず、多様な性の違いを知って正しい知識を身に付けましょう。そしてお互いを理解・尊重し、誰もが心地よく暮らせるまち・北上を作っていきましょう。

性のグラデーション

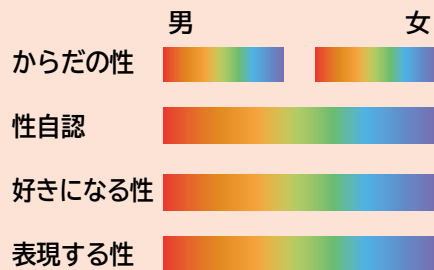
誰もがその中で生きている

-認識が広がりつつあるSOGI-

性のあり方は、右記の四つの要素に分けて考えられ、それぞれの要素の中でグラデーションのようになっています。

例えば、戸籍上は「男性」で、性自認はどちらかという「女性」、好きになる相手は「はっきりしない」で、表現する性はどちらかという「女性」、というような人もいます。

これは性的マイノリティーだけが当てはまるものではありません。みんなが多様な性の当事者であり、性のグラデーションの中で生きているのです。あなたの性のあり方はどうでしょうか？



◆ 性のあり方の四つの要素 ◆

からだの性

出生時の身体的な特徴による生物学的な性。戸籍などに記載される性別です。

好きになる性

自分にとって恋愛や性愛の対象となる性別。性的指向とも言います。

性自認（こころの性）

からだの性別にかかわらず、自分が認識している自分の性別です。

表現する性

言葉遣いやしぐさ、服装や髪形などが自分が表現する性別です。

◆ LGBTQとは？ ◆

Lesbian（レズビアン）
女性として女性が好きな人

Gay（ゲイ）
男性として男性が好きな人

Bisexual（バイセクシュアル）
同性も異性も好きになる人

Transgender（トランスジェンダー）
からだの性と性自認が異なる人

Questioning（クエスチョニング）
自分の性が分からない、迷っている、決めていない人など
※典型的とされる性のあり方以外を包括的に表すクィア Queerの「Q」として使うこともあります。

◆ 多様な性の考え方 ◆

SOGI（ソジ）=Sexual Orientation and Gender Identity(性的指向と性自認)
誰もがそれぞれ異なる性のあり方を持っているという考え

「多様な性の違いを理解・尊重するまち北上」を一緒に作りましょう

LGBTQ+を知っていますか？

問い合わせ 地域づくり課
☎0197-72-8300

◆◆◆ LGBTQ+の皆さんの声 ◆◆◆

僕の出生時の性別は女性ですが、心は男性で、男性として生きていたと思っていました。高校1年生の時に「性同一性障がい」という言葉を知り、31歳で体を男性にする治療を始め、今の戸籍は男性です。

自分の性のあり方を自ら打ち明ける「カミングアウト」とは、信頼している人に自ら話すことです。逆に当事者以外の方が、本人の同意なく誰かに話すことを「アウティング」と言い、とても危険な行為です。勝手な暴露により当事者がいじめにあうこともあるし、悩んで命を絶つこともあるのです。

僕は、両親にカミングアウトする前に間違った情報でアウティングをされた経験があります。親にはいまだに認められていませんし、北上から出ていけと言われてました。また、結婚して市内の学校に通う子どもの父親となりましたが、アウティングによって妻の親戚やまだ小さな子に知られてしまいました。

今は仲間や支援者に支えられ、思い出のある北上で暮らし続けられています。北上がマイノリティに優しい町と言われるよう皆さんと作っていききたいです。

トランスジェンダー
湊さん(33歳)

私は聴覚障がいと性的マイノリティの二つが絡んで、少数の中でさらに少数な存在です。ダブルマイノリティにより、これまでつらい思いをしたことがありますし、同じように苦しむ人がいます。

障がい者の社会でも偏見があり、暮らしにくさや生きづらさというのは健常者と変わりません。障がいは同じでも、LGBTQ+により差別されるのですから。差別的な手話をいまだに使われて傷つく人もいます。

私は今、ろうLGBT東北の代表を務めています。この団体は、東北地方に住む聴覚障がい・セクシャルマイノリティの人たちが、悩みを相談したり情報交換したり、交流する場として立ち上げられ10年になります。それまでは知識や情報を得る手段はなく、1人で悩んでいましたが、今は相談や情報交換ができる仲間と出会うことができます。

皆さんには「そういう人もいるんだ」としてもらい、私は今後も性的マイノリティの仲間が生きやすい社会を作っていきたいです。



聴覚障がい×ゲイ
及川 政伸さん(42歳)

大人が知識を得て理解する姿を子どもたちに示すことが大切

私は現在、アライ(支援者)として活動しています。今年3月に「many colors きたかみ」を及川さん、湊さんと立ち上げ、月1回、LGBTQ+の当事者やアライが集まる学習交流会を開いています。

私の出身は東京で、当事者の知人友人がいて、悩みやつらい思いをしたことを聞く機会がありました。北上に移住して、地方ではより一層生きにくいのでは？と感じることがありました。そう感じる子どもたちのために何かしたいと思ったことが、支援活動につながっています。

私の知っている当事者の皆さんの中には、幼少期から悩み、相談できる環境になかった人が少なくありません。LGBTQ+の知識を持つ大人が増えて子どもたちに示すことが、何よりも今、生きやすい社会につながる方法ではないでしょうか。



支援者／アライ
山本 ゆき子さん(55歳)

■ many colors きたかみ への問い合わせ ☐ 3anycolorskitakami@gmail.com

北上市の取り組み
パートナーシップ宣誓制度

双方が一方が性的マイノリティである2人が、互いを人生のパートナーとして約束した関係であることを市に宣誓する制度です。市は宣誓書受領証を交付します。

また、宣誓する2人の子や親を加えて宣誓することができます。

宣誓ができる人

● 成年(満18歳)に達していること、配偶者がいないこと、他の人とパートナーシップ関係にないこと

● 双方が一方が市内に住所を有していること、または宣誓日から3カ月以内に市内への転入を予定していること。

● 民法で定めている近親者でないこと(養子縁組を除く)

● 宣誓すると利用できること

● 市営住宅への入居申し込み

● リ災証明書の申請(火災を除く)

● 北上市親元就農支援事業費補助金の申請

● 世帯が同一の場合、住民票の続柄を「縁故者」にできる